愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力のお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	経管投与に伴うチューブ閉塞の実態と関連薬剤の探索的研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院　病院長 杉山隆 （試料・情報の提供元の管理責任者）
研究責任者 （個人情報管理者）	愛媛大学医学部附属病院　薬剤部長　田中守
研究期間	研究機関の長の許可日　～　2027 年　3 月　31 日
対象となる方	2014 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までに愛媛大学医学部附属病院へ入院された患者さんのうち、経鼻胃管チューブや胃ろう・腸ろうチューブにて栄養剤やお薬を投与されていた際に、そのチューブが詰まる事例が発生した患者さん
利用する試料・情報等	（利用するカルテ情報）年齢、性別、身長、体重、チューブが詰まった状況、チューブの内径、薬剤、栄養剤投与の有無
研究の概要 （目的・方法）	病気などにともない、口から食事ができなくなった場合には、鼻から胃や小腸までチューブをいれたり、お腹に穴を開けてチューブをつないだり（胃ろう、腸ろうなど）して栄養剤やお薬、水分を直接流し込むために医療処置をおこなうことがあります。特に、鼻からいれているチューブはチューブが細く、気をつけていても栄養剤やお薬が詰まる事例が発生する場合があります。 そこで、チューブが詰まる事例を減らすため、当院で過去に発生したチューブが詰まった事例の分析をおこないます。 分析結果から、チューブが詰まった際に使われていたお薬について、チューブが詰まりやすくなる条件がないか研究を予定しています。
個人情報の保護について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳

	重に保管し外部への提供は行いません。 　また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院薬剤部　秋川千晴 791-0295　愛媛県東温市志津川454 Tel: 089－960－5872